

2019
MCP
award

奨励賞
KDDI 株式会社

KDDI IoTクラウド～マットセンサー～

「乗せただけ」で自動計量、発注システムとの連携も

在庫数・量を見て、適切な時期に発注する——在庫切れや材料切れで販売機会を失わないために欠かせない業務である。現物の確認や発注業務など人手が必要だったこの業務を自動化するのが「KDDI IoTクラウド

～マットセンサー」である。

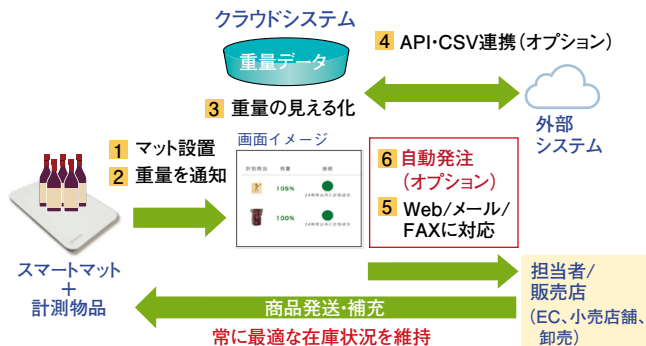
重量センサーと通信機能を搭載したケーブルレスマット「スマートマット」に物品を保管して(置いて)おくと、定期的に計測を行いクラウド上に重量を通知。一定量を下回ったときに

までの自動化を実現できる。

オフィスならコピー用紙や来客用ドリンクの在庫、工場なら資材や仕掛在庫、病院なら衛生用品の在庫など産業分野で広く活用が見込める。導入した企業からは、「目視による残量確認をせずに、常に適切な在庫維持ができた」「定期的に行っていた回収作業を必要量があるときだけに変更し、作業効率が上がった」などの声が寄せられている。

また、高齢者の生活サポートとして生活用品が少なくなった際の自動発注、公共のごみ箱のあふれ検知を行い景観を維持する、といった応用も期待されている。

図 「マットセンサー」の仕組み



Web、メール、FAXなどで通知される。さらに、オプションで自動発注が行えるほか、外部システムとのAPI連携も可能であり、在庫確認から発注